

中期目標・中期計画(素案)

秋田大学

平成 27 年 6 月 26 日

第3期中期目標・中期計画(素案)

(法人番号 12) (大学名) 秋田大学

中期目標	中期計画
<p>(前文)大学の基本的な目標</p> <p>秋田大学は、知の創生を通じて地域と共に発展し、地域と共に歩むという存立の理念を掲げ、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、その使命である教育と研究を推進する。</p> <p>この見地から本学は、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な若者を受け入れ、優れた人材を育成するため、地域や世界の諸機関との連携による柔軟な教育研究体制の構築を推進する。</p> <p>全地球的な視野を持ちつつ、諸課題に正面から向き合い、地に足をつけて行動できる規範意識を内在させた社会人を育成するためには、充実した教養と専門、さらには分野融合的な教育が不可欠である。そこで、本学の国際資源、教育文化、医、理工の四学部は、固有のミッションに基づく専門領域と諸学諸組織との融合を通じて、地域社会の持続的な発展を担う専門的職業人と国際社会で活躍する高度専門職業人及び学術研究者を育成する。</p> <p>こうした基本認識に立って、本学は学生と教職員との全学的な知の交わりが躍動する、学修者中心の大学たることを目指す。</p> <p>以上のような理念に基づき、活動の基本的な目標を以下に定める。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 教育においては、質の国際通用性を高め、地域と世界の諸課題の解決に取り組む人材を育成する。2. 研究においては、地域の特性を活かした研究とグローバルな課題に対応する研究に取り組むことにより、イノベーションの創出を推進し、その成果を継続的に地域と世界に発信する。3. 社会連携においては、教育研究成果を地域社会に還元し、地域と協働した地域振興策の取組を推進するとともに、地域医療の中核的役割を担う。4. 国際化においては、資源産出国を中心とした諸外国の留学生・研究者との学術交流を推進するとともに、学生や教職員の海外留学・派遣を促進する。5. 大学経営においては、学長主導の下、学生及び教職員一人ひとりの活力を相乗的に高めた組織文化を浸透させ、透明性を確保した健全で効率的な大学経営を目指す。	

<p>◆中期目標の期間及び教育研究組織</p> <p>1 中期目標の期間 平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。</p> <p>2 教育研究組織 この中期目標を達成するため、別表に記載する学部及び研究科を置く。</p>	
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>1 教育に関する目標</p> <p>(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標</p> <p>【1】学士課程の教育カリキュラムの充実を推進し、豊かな教養と高い人間性を備えるため、多様で調和のとれた教養基礎教育と各分野のミッションに沿った専門教育を通じ、世界や地域の現実に課題意識を持った学修者を育成する。</p>	<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>【1】①学士課程においては、判断力・コミュニケーション力、探究心、倫理性などを涵養するため、知識・技能・態度を育成するカリキュラムマップ（履修系統図）に基づく教養基礎教育を継続的に実施する。</p> <p>【2】②専門分野においては、各学部のミッションの再定義等で明らかにした文理融合カリキュラムに基づく自然科学と人文科学両面から資源問題を捉える能力を有し国際的に活躍できる人材の育成や、超高齢化社会を迎えた地域の活性化に資するため、小学校での実習経験を増やして実践力を高めることなどにより全国トップクラスの学力を支える教員（秋田県における小学校教員養成占有率の60%以上確保）、秋田県や地域の医療機関等と連携することなどによる地域医療を支える医療人、学生自主プロジェクト等の実践教育などによる新しいものづくり・ことづくりを担える人材を育成する。</p> <p>【3】③高校から大学への接続を円滑に行うため、平成22年度「大学教育推進プログラム」として採択された「高大接続の実践的プロジェクト」の成果を継承し、秋田県の高等学校教諭と本学教員が合同で編集し平成26年3月に発刊した「秋田大学高大接続テキスト」を自学自習用として活用し、その成果を高大接続センター（仮称）において検証のうえ、改善につなげる。</p> <p>【4】④アクティブ・ラーニング（能動的学修）や双方向型授業への転換を進め、学生の授業時間外での主体的な学習時間を第2期中期目標期間の平均値に比較し、25%以上増加させる。また、学習成果の達成度をGPA（グレード・ポイント・アベレージ）等を用いて引き続き計測し、一定の基準を超えた学生については、半期で受講できる上限単位数を超える履修を認めるなどの学修指導に活用する。</p> <p>【5】⑤授業科目へのナンバリング（授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系的性を明示する仕組み）の100%導入、全学的なシラバス（授業計画）の書式の整備などにより、各分野のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実</p>

【2】大学院の教育課程を充実させ、専門的知識と実践的能力を備え、かつ専門分野を俯瞰的に捉えることができる高度専門職業人及び国際的水準の研究を担う研究者を養成する。

(2)教育の実施体制等に関する目標

【3】全学の教職員が連携し、FD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）活動を強化して教育の質を向上させる体制や取組を構築する。

【4】教育・研究活動に対する社会の要請等に対応して、教育実施体制を不断に検証・検討することのできる体制を確立させる。

施の方針）並びにディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に基づいた体系的な教育課程を維持向上させ、その成果を教育研究カウンスルにおいて検証し、改善につなげるなど、全学的な教学マネジメントを確立させる。

【6】⑥国境を越えた多様な学生との交流や学生の国際理解力及び異文化コミュニケーションの向上を図るため、専門教育科目の英語による授業科目数を増加させる。

【7】①平成24年度「博士課程教育リーディングプログラム（オンリーワン型）」に採択された「レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム」を国際資源学研究科において継承し、優秀な資源人材の育成を推進する。専門科目を100%英語で教授するほか、海外鉱山等を活用した海外インターンシップ／フィールドワークなど実学教育（On-the-Job-Education）を積極的に取り入れ、実践力・俯瞰力の修得を重視した教育研究活動を推進する。また、産学官の専門家を巻き込んだキャリアパスの支援教育や、国内外の優秀な学生の獲得から学位取得までの質保証審査を確実にを行い、外部評価などによるプログラムの質保証を進める。

【8】②平成28年4月に設置された国際資源学研究科、理工学研究科、改組再編した教育学研究科、及び医学系研究科において、各分野のカリキュラム・ポリシー並びにディプロマ・ポリシーに基づいた一貫した学位プログラムを組織的に実践するとともに、引き続き専門分野の枠を超えた統合的かつ体系的な教育課程（医理工連携コース等）及び秋田県立大学との大学院共同教育課程「共同ライフサイクルデザイン工学専攻」を推進し、各研究科が目指すべき目標を達成しているかについて、外部委員を構成員に含む連携運営パネル（教育研究カウンスル・運営カウンスル）において検証し、改善につなげる。

(2)教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

【9】①アクティブ・ラーニングや双方向型授業への転換を進めるため、第3期中期目標期間を通じて在職している教員のFDへの参加率を平成33年度末までに90%以上とする。また、アクティブ・ラーニングや双方向型授業の実施状況について、学生による授業評価または同僚評価等により、教育推進総合センター及び各学部の学務系委員会等が検証し、改善につなげる。

【10】①平成26年度に開設した国際資源学部、理工学部、改組再編した教育文化学部、及び医学部それぞれのミッションを実現するため、教育推進総合センター及び各学部学務系委員会等において、達成度調査・学習行動調査等により学生の学修成果を把握するとともに、各学部に設置された外部委員を構成員に含む教育研究カウンスルにお

いて検証し、改善につなげる。特に、教育文化学部においては、教員養成課程の教職経験のある大学教員の割合を、教職経験者の積極的な採用などにより平成33年度末までに60%以上を確保する体制を構築する。

【11】②大学院課程においては、平成28年4月に設置された国際資源学研究科、理工学研究科、改組再編した教育学研究科、及び医学系研究科の運営体制、教育課程及び教育成果について、外部委員を構成員に含む連携運営パネル（教育研究カウンスル・運営カウンスル）において検証し、改善につなげる。

【12】③授業力に加え、校内研究や教育課題に取り組む力を育成することにより、教職大学院修了者の教員就職率を90%以上確保し、小中学校の学力向上に貢献するとともに、秋田県立大学との大学院共同教育課程「共同ライフサイクルデザイン工学専攻」や平成32年度までに設置予定の大学院医理工連携専攻（仮称）を通じて、地域のライフサイクル産業や医療関連産業の発展に寄与し、その成果について、外部委員を構成員に含む連携運営パネル（教育研究カウンスル・運営カウンスル）において検証し、改善につなげる。

(3) 学生への支援に関する目標

【5】 修学支援、キャリア形成支援及び就職支援活動を通じて、学生が自らの将来を展望し、意欲的に学べる環境を充実させる。

【6】 生活支援や経済的支援活動を通じて、学生が心身ともに健康で安心して学べる環境を充実させる。

(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

【13】①学生の学修・進級・進学に関する各部署相互の連携を密にし、修学支援機能を一層強化するため、全学学務系委員長会議を設置するとともに、世界・地域を見据えたリーダーを育むため、引き続き新入生の課題克服に向けたサポートを行う「学習ピアサポート・システム」、レポート作成などの相談に乗る「学習サポートデスク」、グループで討論しながら学修できる「コモンズ」の提供、英語力向上のための「The ALL Rooms」、基礎学力養成のための「質問教室」等の運用を推進し、その成果を教育推進総合センターにて検証のうえ、改善につなげる。

【14】②従来から実施している初年次から学生の職業観を育成するキャリア教育や学内インターンシップの推進、学生一人ひとりに対する就職支援サポート体制の充実、「起業力養成講座」等開設による学生のベンチャーマインド養成を推進し、その成果を教育推進総合センター及び学生支援総合センターにて検証のうえ、改善につなげる。

【15】①全ての学生にとって学びやすい環境を充実させるため、学生支援総合センターに設置した「学生特別支援室（学生サポートルーム）」や「よろず相談室（おどってたんせ）」、メンタル面の相談・健康相談に対応するために保健管理センター内に設置した「学生相談所」がそれぞれ連携し、引き続き学生の修学支援に取り組む。また、それらの成果を学生支援総合センターにて検証のうえ、改善につなげ

る。

- 【16】②意欲と能力ある学生が経済的な理由により学業を断念することがないように、引き続き入学料・授業料免除を全学的に実施するとともに、特に成績優秀な学生に対しては、学長より学業奨励金を給付するなどの顕彰を行う。また、大学院進学予定の学生の中で成績優秀または経済的支援を必要とする学生に対して、奨学金を給付するなどの経済支援策を実施する。これら各種経済的支援の効果を把握するため、成績・学習時間などに関するアンケート調査等を実施し、その成果について外部委員を構成員に含む教育研究カウンスルにおいて検証のうえ、改善につなげる。

(4) 入学者選抜に関する目標

- 【7】 本学の理念・目標や各学部・研究科のアドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）に沿った優れた人材が国内外から多く集まるように、入学者選抜方法を改善・充実させる。

(4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置

- 【17】①平成32年度の入試改革に向けた体制整備として、高大接続教育部門（仮称）、入学者選抜方法等研究開発部門（仮称）及び広報推進部門（仮称）からなる秋田大学高大接続センター（仮称）の平成29年度中の設置に向けた準備を開始し、設置準備委員会の下でAO（アドミッション・オフィス）入試や推薦入試の実施状況・実施結果の検証を行うとともに、アドミッション・ポリシーに基づいた能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜システムを開発し、平成30年度にはその概要を公表し、平成32年度入試から導入する。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

- 【8】 地域に根ざす大学としての個性を発揮し、地域の特性を活かした研究の推進とイノベーションの創出により、地域の活性化や発展に寄与する。

- 【9】 国際的な研究水準の向上と本学の強みや特色を活かした研究の推進により、新たな価値の創造と新たな連携へと発展させる。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

- 【18】①地域の問題解決に向け、引き続き企業等と協同のうえ、高齢化対応のシステムや福祉医療機器の開発を推進し、医理工連携による大学院教育を行うほか、平成33年度末までに秋田大学医工連携ブランドロゴマーク添付商品を累計10品以上商品化するなど秋田県版医療のシリコンバレーの形成を目指す。また、地域企業等と連携して、航空宇宙分野の共同研究活動を行う。

- 【19】①基礎的基盤的研究を重視するとともに、研究の多様性・活性化を図るため、若手研究者・女性研究者に対し、研究スタートアップのための経費支援等を行う。

- 【20】②資源学・資源リサイクル分野及び生体情報学・移植医療分野を中心に、研究設備やスペース利用などの充実・研究機能強化を進めるとともに、国際的な先端研究の展開並びに産業化にもつながる研究を推進する。

- 【21】③科研費及びその他競争的資金の獲得を拡大するための情報収集を行

い、リサーチ・アドミニストレーターの配置等により効果的な研究費の獲得を支援する。特に科研費については、応募資格者数に対する申請件数の比率を100%以上とするとともに、採択率向上のため、研究者間のピアレビュー等の取組を推進する。また、外部研究資金獲得のため、産業界や他の教育研究機関と連携した研究や金融機関等との連携などの取組を推進する。

(2) 研究実施体制等に関する目標

- 【10】 研究を推進する研究組織の弾力化を促進し、研究環境の国際化を推進するとともに、研究成果や知的財産を地域や社会に発信・還元できる人材を育成する。

(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置

- 【22】 ①学内共同教育研究施設等各組織の役割を明確化させ、その機能を最大限發揮するため、平成28年度中に、人員配置、施設設備、予算等について検証のうえ、改組・再編を行い、研究推進及び研究支援の体制・機能を強化する。平成29年度以降は、毎年度各組織において活動状況の自己点検評価を行い、学内共同教育研究施設評価改善検討会議で検証のうえ、改善につなげる。
- 【23】 ②本学教員と地域企業等との連携を促進し、地域企業の研究・開発力向上に寄与するため、学生も参加する産学連携推進による人材育成を行うとともに、引き続き社会人のキャリアアップやキャリアチェンジを支援する社会人学び直しプログラムである「秋田大学アドバンスト・リエデュケーション・カリキュラム(AAReC)」を実施する。また、引き続き秋田大学履修証明プログラム「あきたアーバンマイン開発マイスター養成コース」を秋田県と協力して開講し、環境・リサイクル産業の振興・拡大及び環境教育等に貢献できる人材を養成する。
- 【24】 ③「起業力養成講座」等による教員や学生のベンチャーマインドの醸成や起業支援を行うなど地域産業の発展に貢献する人材を育成し、平成33年度末までに秋田大学発ベンチャー企業を累計10社以上認定する。
- 【25】 ④教員の外部資金の獲得状況や論文等の研究活動をデータベース化し、企業や国内外の大学、研究機関等との研究協力・連携を推進することにより、受託研究及び共同研究を実施する教員の割合を、第3期中期目標期間を通じて25%以上を維持するほか、地域や社会に貢献するような分野横断型または学際的なプロジェクトを推進する。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

- 【11】 「地(知)の拠点整備事業」(大学COC (Center of Community) 事業)を行う大学として、学生の地域に関する知識・理解を深めるとともに、地域の課題解決を目指して、地域との協働による地域振興策の取組を推進する。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置

- 【26】 ①学生の地域に関する知識・理解を深めるため、地域志向に関する教育を教育内容の充実等により実施する。また、第3期中期目標期間中に本学特有のCOCキャリア認証の仕組みを地域創生センターで構築し、フィールドワークや地域活動への参加を奨励して、地域に

【12】秋田県唯一の国立大学法人として、県内自治体や企業等と連携し、本学の有する教育研究資源を広く地域社会に提供し、地域活性化に貢献する。特に、県内に設置された各分校を通じた地域連携活動を推進する。

関わる学生を平成 27 年度末と平成 33 年度末を比較して 10%以上増加させる。

【27】②大学COC (Center of Community) 事業最終年度の平成 29 年度までに、大学COC事業に掲げている 5 つの課題 (豪雪地帯の積雪寒冷期における地震防災、在宅看護・医療を考える地域ネットワークの形成、鉱山の隆盛がもたらした阿仁文化の現代への活用、広い低平地における津波対策、豊川小学校跡地を活用した地域住民の心のよりどころとなる多目的交流施設等による地域活動の活性化) について、秋田県や事業参画自治体及び地域住民との協働作業を進め、課題解決に向けた取組を行い、県内自治体と住民が超高齢社会においても希望を持てる「秋田発の地域生活モデル」を構築する。また、平成 30 年度以降は「秋田発の地域生活モデル」を広く普及させる事業展開を行う。

【28】①地域社会に開かれた大学として、引き続き「秋田大学子ども見学デー」を年 1 回実施するとともに、社会人向けの公開講座を年 7 講座以上開催し、地域へ教育研究資源を提供する。事業ごとにアンケートを実施して、その結果について外部委員を含む地域創生センター運営委員会で検証し、次年度以降の取組に反映させる。また、引き続き国立大学法人唯一の文部科学省認定社会通信教育である「秋田大学理工学部通信教育講座」を開講し、社会人の職業上必要な知識や技術の習得及び教養のレベルアップに貢献する。

【29】②東日本大震災を機に設置された地域創生センター地域防災部門を中心に、外部有識者として秋田県や県内各市町村の防災計画委員会等に参画し、指導・助言を行い、地域防災力を向上させる。また、引き続き地域防災組織や小中学校等での防災教育に協力し、地域における防災意識を向上させるため、各種講演や出前講義を年 30 件以上実施する。

【30】③秋田県内に設置されている秋田大学分校 (横手分校、北秋田分校、男鹿なまはげ分校の 3 校) を通じて、引き続き本学の所在する秋田市以外の地域へ教育研究資源を提供する。具体的には「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」等の公開講演会を年 5 件以上、小中学生向けの科学教室等を年 8 件以上、学生と地域住民との交流活動を年 9 件以上実施する。また、連携協定締結自治体における地域の活性化を図るため、学生と地域が連携した地域の魅力発掘活動や教育資源の提供などの地域課題解決に向けた実践的取組を継続・発展させる。さらに、事業ごとにアンケートを実施して、その結果について外部委員を含む地域創生センター運営委員会で検証し、次年度以降の取組に反映させる。

4 その他の目標

(1)グローバル化に関する目標

【13】秋田鉱山専門学校・秋田大学鉱山学部及び工学資源学部の資源学分野の蓄積を活かした国際資源学部を中心に、国内外の資源に関わる企業・政府機関等の多様な分野で活躍できる人材の養成を行い、我が国の資源・エネルギー戦略に寄与することを目指し、世界的な資源学教育研究拠点としての充実と、世界水準の教育基盤を確立させる。

【14】国際理解力や異文化コミュニケーション能力を持ったグローバルに活躍する人材を育成するため、教育プログラム・カリキュラム等を整備し、学生や教職員の派遣・受け入れを推進する。

(2)附属病院に関する目標

【15】次世代を担うグローバルな視点を持った地域医療に貢献する優れた医療人養成を推進するための医療教育企画や養成プログラムを充実させる。

【16】先進的臨床研究や社会に貢献できる活動を推進するための体制

4 その他の目標を達成するための措置

(1)グローバル化に関する目標を達成するための措置

【31】①資源学の最前線で活躍する文理融合のグローバル人材を養成するため、国際資源学部基礎教育科目における留学生を交えたプレゼンテーション授業を取り入れた少人数クラスによる I-EAP（集中大学英语）の実施及び2年次以上の専門教育科目を100%英語で実施するとともに、3年次の海外資源フィールドワークの参加率を100%とする。

【32】②アジア・環太平洋地域を中心とするグローバル教育・研究とハブ機能を充実させるとともに、アフリカ・中東地域における資源学拠点形成を推進するため、海外共同研究拠点等を平成33年度末までに累計5か所以上設置する。

【33】①グローバルに活躍する人材を育成するため、クォーター制（4学期制）の導入やシラバスの英語化を推進し、在学生の海外への留学・研修経験者の割合を平成33年度末までに10%以上とする。また、教職員の派遣を推進するため、引き続き「秋田大学研究者海外派遣事業」や中国・蘭州大学など海外機関との職員相互派遣研修等を実施する。

【34】②「留学生200人体制」を軸としながら、引き続き外国人留学生の支援体制及び学修・生活環境を整備充実させるとともに、渡日前入学許可制度による入試の実施等により、正規留学生の受け入れを強化する。特に、本学が推進する資源学拠点形成と資源技術者養成等のため、アジア・アフリカを中心とした「資源産出国」からの留学生受け入れを強化し、平成27年度末と平成33年度末を比較して、「資源産出国」からの留学生比率を5%以上増加させる。

(2)附属病院に関する目標を達成するための措置

【35】①大学病院や県内外病院のチーム医療推進及び専門医、認定看護師、専門薬剤師等、高度な医療人を養成するため、総合臨床教育研修センターを中心に、医療従事者（医師、看護師、薬剤師等）を対象とした医療教育企画を年間12回以上行う。

【36】②平成29年度から実施される新専門医制度に準拠して、秋田県における専門医養成プログラムの基幹病院として、専門医育成の中心的役割を担い、大学中心の専門医養成プログラムで毎年25人以上のプログラム登録者（専攻医）を確保する。

【37】①臨床研究支援センターを充実させ、ヒトを対象とする臨床研究や医

や企画を充実させる。

- 【17】大学病院としての高度医療機能の充実と良質な医療の提供を推進するとともに、秋田県の医療における重要課題に取り組み、地域医療に貢献する。

(3) 附属学校に関する目標

- 【18】地域が抱える教育課題の解決に向けて中心的な役割を果たすとともに、大学・学部と連携した運営を行う。また、教職大学院のカリキュラム開発や地域の教育委員会と連携した現職教員研修の充実に取り組む。

薬品等の治験などの質の向上と信頼性を確保し、治験件数を第2期中期目標期間中の平均値に比較し30%以上増加させる。また、研究者の責務や倫理性を担保するための教育・研修を年1回以上開催する。

- 【38】②秋田県のがん死亡率改善のため、がん診療関連の医療従事者（医師、看護師、薬剤師等）を対象とした教育・講習を年2回以上開催し、第3期中期目標期間中に600人以上の出席者を得、秋田県のがん専門医師や医療従事者の数や質を高める。
- 【39】①ITをはじめとする先端技術を活用したシステムを、持続的・発展的に開発し、稼働・運用することにより、医療安全の向上や職員の負担軽減に資する。
- 【40】②女性医師のキャリア支援、育児・子育て・職場復帰支援を充実させ、女性医師の育児休業取得率、復職率ともに第3期中期目標期間を通じて75%以上を維持する。
- 【41】③県の拠点病院として、高齢化が進む秋田県に多いがんや循環器疾患等に対する医療体制の充実を推進し、秋田県と協力して、県民への啓発活動実施、県内拠点病院への医師派遣、県内医療体制構築に参与、本学卒業医師の県内定着を推進する。
- 【42】④大腸、食道、胃、肝、肺、乳腺、前立腺、子宮などの主要ながんの根治手術の低侵襲化を推進するため、腹腔鏡手術・ロボット支援手術などの低侵襲手術を積極的に導入する。また、医療安全を徹底し、医療倫理を遵守する。
- 【43】⑤病院機能を充実させ良質な医療の提供を行うとともに、病院経営の健全化と医療の安定的提供に向け、医療費率41%未満を維持しつつ、手術室の効率的運用や集中治療部の活用等により、手術件数を第3期中期目標期間中に第2期中期目標期間の年間平均件数比10%以上増加させることを目標とした取組を実施する。

(3) 附属学校に関する目標を達成するための措置

- 【44】①授業改善、特別支援、校種間連携など学校現場が抱える教育課題について、学部・研究科（教職大学院）と共同で研究活動を行い、その成果を公開研究協議会のほか、オープン研修会・研究会、相談活動等を通じて、地域との交流・協議、地域への貢献に活用する。また、アクティブ・ラーニング等の実践に関する研究活動も共同で行い、その成果を学士課程及び専門職学位課程（教職大学院）のカリキュラムへ反映させる。

【45】②学部・研究科（教職大学院）と共同して教育や研究並びに運営等の改善に取り組むため、共同のFDを年1回開催するとともに、共同の授業を年10科目以上、共同の研究を年5件以上、附属学校運営会議を年2回以上、全学運営協議会を年1回以上行う。

【46】③地域における指導的・モデル的な学校となるように、多様な子供たちを受け入れるとともに、秋田県及び秋田市教育委員会が参加する地域連携協議会を年1回以上開催して、地域と連携した教育や研究に取り組み、地域の教育課題の解決に貢献する。また、外部評価を6年ごとに実施し、そこで得られた結果を検証のうえ、改善につなげる。

【47】④学部・研究科（教職大学院）と連携し、学士課程及び専門職学位課程（教職大学院）の教員養成プログラムを平成31年度までに開発してカリキュラムに反映させ、その検証及び改善を行うとともに、秋田県教育委員会と連携して、現職教員の指導力向上に資する研修プログラムを平成33年度までに開発し、導入する。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

【19】本学の強みや特色を活かし、教育研究機能を最大限に発揮するための実効性・透明性のある運営体制を構築する。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置

【48】①学長のリーダーシップの下、引き続き理事・副学長・監事を構成員とする役員ミーティングを年間30回程度開催し、本学の経営及び運営の重要事項について情報共有・意見交換を実施し、ガバナンス及びマネジメントの実質化と迅速化を推進する。また、学長を議長とし、理事・副学長・各学部長・研究科長等を構成員とする大学運営会議について原則月1回継続的に開催し、本学の管理運営等に関する重要事項の企画・立案・執行方法の検討及び部局間の連絡調整並びに情報共有を行うことにより、効率的な法人運営を推進する。

【49】②平成26年度に設置した学長直属の大学戦略室において、学長から諮問があった事項に関する企画・立案等を行うため、IR（インスティトゥーショナル・リサーチ）を活用した経営戦略の立案や業務改善、組織体制の見直し等を推進する。また、引き続き本学役員と監事、会計監査人、監査室で構成される四者協議会において洗い出した課題等に対して、学長のリーダーシップの下、業務改善等に向けた取組を実施する。

【50】③学長のリーダーシップの下、平成27年度に各学部・研究科に設置した本学独自の学部運営システムである、外部委員を構成員に含む教育研究カウンスル及び運営カウンスルからなる連携運営パネルを原則年3回以上開催する。教育研究カウンスルでは教育課程の編成、教員の採用及び昇任候補者の学長への推薦、教育に関する規程

等の制定・改廃，教育研究に関する重要事項を，運営カウンスルでは講座その他重要組織の設置改廃，学部研究科の予算，運営に関する規程等の制定・改廃，運営に関する重要事項を審議し，これらの意見を踏まえ，柔軟かつ機動的な組織改革を実施する。

【20】教育・研究活動を活性化させるため，多様な人材・人員構成となるよう人事・給与システムの弾力化を推進する。

【51】①教員人事については，学長が全学的な視点に立って決定するため，各部局の人事計画及び人事配置方針に基づく教育研究カウンスル等の議を経た人事計画等を，人事調整委員会（委員長：学長）において審議し裁定する体制で引き続き行う。

【52】②多様な人材を確保するため，人事・給与システムの弾力化に取り組み，教員（承継職員）について，平成28年度にその10%（約60人）を年俸制に移行するとともに，平成29年度以降はその割合を維持する。また，年俸制教員については，教育・研究・社会貢献・産学連携・国際・診療・管理運営の分野に係る教員評価を年俸制適用教員業績評価審査会で実施し，評価結果を適切に処遇に反映させる。

【21】ワークライフバランスに配慮したすべての教職員が働きやすい職場とするため，勤務環境の一層の改善及び充実に取り組む。

【53】③40歳未満の優秀な若手教員の活躍の場を，テニユアトラック制度等を活用するなどして全学的に拡大し，教育研究を活発化させるため，若手教員の雇用に関する計画に基づき，若手教員（承継職員）の雇用を平成33年度末までに10人以上となるよう促進する。

【54】①教職員が仕事と生活を両立できる制度及び勤務環境を整備充実させるため，引き続き育児・介護休業等の取得及び子の看護休暇・短期介護休暇制度等に関する啓発を行うとともに，時間外労働時間数について，1年単位の変形労働時間制の導入などにより，第3期中期目標期間中の1人あたり平均時間数を第2期中期目標期間中の平均時間数と比較して2%以上縮減するなど，ワークライフバランスを保つ施策を実施する。また，保健管理センター及び産業医を中心として，教職員のフィジカルヘルス及びメンタルヘルスの支援体制を確立し，対応状況等を安全衛生委員会で検証のうえ，改善につなげる。

【55】②男女共同参画推進のため，学長のリーダーシップの下で女性教員採用方針策定や女性幹部職員登用の人事計画を定め，学内に周知徹底し，第3期中期目標期間中の女性教員比率を18%以上維持するとともに，女性管理職の比率を平成33年度末までに14%以上とする。

2 教育研究組織の見直しに関する目標

【22】社会の変化に対応した教育研究組織の恒常的な再構築を行う仕組みや体制を整備する。

2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置

【56】①各学部・研究科の実施する教育・研究がミッションの再定義に沿った内容及び成果が得られているかについて，外部委員を構成員に含む経営協議会及び連携運営パネル（教育研究カウンスル・運営カウ

	<p>ンシル) が検証し、改善につなげる。また、地域や社会の要請が高い分野の人材を育成するため、学長のリーダーシップの下で活動する評価センター及び大学戦略室において、I R を用いた分析等を行い、教育研究組織や人員配置等の見直しを行う。</p>
<p>3 事務等の効率化・合理化に関する目標 【23】 本学の理念に沿った教育研究活動を支援するため、機動的な事務組織体制の整備や高度人材育成を推進する。</p>	<p>3 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置 【57】 ①事務組織の機能や事務改善の取組について継続的に検証のうえ、業務のアウトソーシング等効率化・合理化策を実施するほか、事務組織の再編、業務の集約化を推進のうえ、新規採用の抑制等により、平成 27 年度末と平成 33 年度末を比較して事務系職員・技術系職員を 10 人以上削減する。 【58】 ②研修及び学外機関との人事交流の促進による人材育成を推進する。特に、英語をはじめとした語学力の向上など国際業務に対応できる人材育成を推進するため、事務系職員・技術系職員の英語能力向上に資する資格取得等の支援を行い、平成 33 年度末までに TOEIC スコア 700 点以上の事務系職員・技術系職員を 10 人以上育成する。</p>
<p>Ⅲ 財務内容の改善に関する目標 1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標 【24】 競争的資金、寄附金その他の外部資金の積極的な獲得を目指すとともに、他の自己収入を増加させる取組を行う。</p>	<p>Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 【59】 ①科研費及びその他外部研究資金を効果的に獲得するため、引き続きリサーチ・アドミニストレーター配置等による戦略的な支援策や産学連携の推進のほか、学内版競争的資金などにより研究活動の支援体制を強化する。また、同窓会や地域社会等との連携・協力の下、個人・法人が継続的に寄附を行い、本学の活動を支援する「秋田大学みらい創造振興会」の創設などの取組を通じて、「秋田大学みらい創造基金」への寄附金を平成 33 年度末までに 5,000 万円以上受け入れる。 【60】 ②自己収入を増加させるため、宿舍料金など各種料金の見直しを行うとともに、証明書発行手数料を設定するなど新たな自己収入策を実施する。</p>
<p>2 経費の抑制に関する目標 【25】 業務の合理化による経費削減や効率的な予算執行により、健全な法人運営を行う。</p>	<p>2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 【61】 ①管理的経費等の現状分析を引き続き行うとともに、より実務的な削減方策を検討する体制を整備し、旅費業務の委託契約の見直しや刊行物の減など経費を抑制する取組を実施し、業務費に対する一般管理費比率を第 3 期中期目標期間中、恒常的に 3 % 以内に抑える。</p>

<p>3 資産の運用管理の改善に関する目標 【26】全学的かつ経営的視点に立って、大学が保有する資産の効果的・効率的な運用を行う。</p>	<p>3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置 【62】①土地・施設・設備の使用状況について、定期的に検証し、有効活用を推進する。また、役員会において、余裕金の運用計画を策定し、資金の安全かつ効率的な運用を継続的に実施する。</p>
<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>1 評価の充実に関する目標 【27】自己点検・評価，その結果に基づく改善活動により，教育研究の質の向上及び大学運営に有効に活用する。</p>	<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 評価の充実に関する目標を達成するための措置 【63】①中期目標・中期計画を確実に遂行するため，評価センターにおいて自己点検・評価を継続的に行うとともに，学内の各種情報を集約化のうえ，大学ポータル上に公開する。また，本学が抱える課題を分析のうえ，その内容を役員ミーティングや大学運営会議に諮り，学長のリーダーシップの下，業務改善や教育研究の質の向上に関する企画の実施などを通じて大学運営に活用する。</p>
<p>2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標 【28】本学の教育研究に関する成果や活動について，国内外に積極的に情報発信し，社会から一層の理解・協力を得られるような広報活動を展開する。</p>	<p>2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置 【64】①大学経営の透明性の確保や社会への説明責任を果たすため，経営状態やコンプライアンス取組状況を継続的に情報公開する。また，本学のブランド力やイメージ向上など知名度を高めていくための広報戦略やアクションプランを平成29年度中にとりまとめ，多様なメディア等を駆使した広報活動を展開し，その成果を広報戦略室において検証のうえ，改善につなげる。</p>
<p>V その他業務運営に関する重要目標</p> <p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標 【29】教育研究を一層充実・発展させるため，計画的な施設設備の整備・活用等を行い，良好なキャンパス環境を形成する。</p>	<p>V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 【65】①学長のリーダーシップの下，国際資源学部等の拠点となる施設づくりやそれ以外の分散している教員室等の集約化等のため，手形キャンパスの現有施設（教員室等）の移転や改修等によりスペースの再配置を実施する。また，平成27年度に策定したキャンパスマスタープランを踏まえて，ライフラインの実態把握を通じた老朽化対策及び施設整備に際しての環境負荷低減機器の導入といった省エネ対策等を中心とした施設整備やマネジメントを推進し，その成果を施設マネジメント企画会議で検証のうえ，改善につなげる。さらに，設備マスタープランにおいて，設備の現況の把握及び更新計画を策定し，効率的・効果的な設備整備やマネジメントを推進する。</p>

<p>2 安全管理に関する目標 【30】 全学的なリスクマネジメント体制を整備し、内部統制機能を強化するとともに、引き続きリスク管理・安全教育についての教職員及び学生の意識を向上させる。</p>	<p>2 安全管理に関する目標を達成するための措置 【66】 ①毒物及び劇物の不適切な管理事例の発生等を踏まえ、薬品管理システム等による管理並びに管理体制の徹底など再発防止策を強化する。また、引き続きリスクマネジメントの観点から、危機管理委員会を中心として、危機管理対応マニュアル等の見直しを適宜行い、予防から復旧までの一貫したリスク情報の管理体制を強化する。 【67】 ②東日本大震災の経験を踏まえ、学生、教職員の安全を第一に考えた防災対策に努め、キャンパスごとに防災訓練を年1回以上実施する。また、引き続き大規模災害時において教育研究活動等の復旧・再開が困難となった場合、東北地区の他大学と連携・協力し、迅速かつ的確に復旧支援を行う。</p>
<p>3 法令遵守に関する目標 【31】 信頼性の高い健全で適正な法人運営を行うとともに、引き続き法令遵守を徹底し、社会への説明責任を果たす。</p>	<p>3 法令遵守に関する目標を達成するための措置 【68】 ①従来から実施している内部監査の徹底や各種法令等の適切な情報提供及び教職員への意識啓発を継続的に行い、コンプライアンスを維持するほか、発生した問題事案を的確に総括し、実効ある再発防止策を徹底する。 【69】 ②研究における不正行為、研究費の不正使用防止における管理責任体制を整備のうえ、教職員及び学生のうち研究に携わる者を対象とした研究倫理教育プログラムを策定し、対象者を100%受講させるとともに、学長あての誓約書の提出を義務づけるなどの研究における不正行為・研究費の不正使用を未然に防止する取組を実施する。 【70】 ③本学の情報システムの将来像をまとめた「情報化推進基本計画」及び「情報化推進計画（マスタープラン）」に基づき整備している情報セキュリティポリシーや各種マニュアル・手順書のほか、情報ネットワーク機器のセキュリティ対策、緊急時における体制や手順について、随時、点検・見直しを行う。また、教職員及び学生の情報セキュリティ意識の向上を図るため、情報統括センターにおいて講習会等を年1回以上開催し、理解度や受講率を向上させるための動画配信等の取組を実施する。</p>
	<p>(その他の記載事項) (別紙に整理) ○予算(人件費の見積りを含む)、収支計画及び資金計画 ○出資計画 ○短期借入金の限度額 ○重要財産の処分(譲渡・担保提供)計画 ○剰余金の使途 ○施設・設備に関する計画 ○人事に関する計画 ○中期目標期間を超える債務負担 ○積立金の使途</p>

別表(学部, 研究科等)

学 部	国際資源学部
	教育文化学部
	医学部
	理工学部
	工学資源学部 (H26 募集停止)
研 究 科	国際資源学研究科
	教育学研究科
	医学系研究科
	理工学研究科
	工学資源学研究科 (H28 募集停止)

別表(収容定員)

学 部	国際資源学部	480 人
	教育文化学部	840 人
	医学部	1,047 人
	(うち医師養成に係る分野	595 人)
	理工学部	1,604 人
	工学資源学部	0 人
大 学 院	国際資源学研究科	110 人
	(うち博士前期課程	80 人)
	(うち博士後期課程	30 人)
	教育学研究科	52 人
	(うち修士課程	12 人)
	(うち専門職学位課程	40 人)
	医学系研究科	163 人
	(うち修士課程	10 人)
	(うち博士前期課程	24 人)
	(うち博士後期課程	9 人)
	(うち博士課程	120 人)
	理工学研究科	330 人
	(うち博士前期課程	300 人)
(うち博士後期課程	30 人)	
工学資源学研究科	0 人	
(うち博士前期課程	0 人)	
(うち博士後期課程	0 人)	